カンボジアスタディツアーに参加して学んだこと

不二聖心女子学院高等学校　Oka.Y

　私が、このツアーに参加したのは、教育について関心があり、夢である国連職員になるために、自分の目で見てたくさん知り経験したいという思いからでした。実際、このツア ーを通して、カンボジアの歴史や文化、教育、平和などについてに加え新たな幸せの形など 多くの学びや新たな自分の考えに出会うことができました。

寺子屋(Community Learning Center : CLC)

　寺子屋は、地域の人に生涯学習の機会を提供する公民館的な場所です。様々な理由により中退してしまった子ども達への復学支援や進学支援、職業訓練、大人への識字教室などが行われています。私たちは、アンコールワットの近くにあるリエンダイ寺子屋に伺わせていただきました。小学校の内容を2年間で復習し復学を目指す「復学支援プログラム」と、高校進学を目指す「中学校クラス」の2つのクラスの見学、子ども達への扇子づくり・折り紙教室をいたしました。子ども達は、みんな元気に返事してくださり、質問すると楽しそうに手をあげてくれました。しかし、私と同じ年齢の男の子でも私より身長が低かったりと全体的に年齢に対して幼く見えるところから栄養などの問題も見えてきました。子ども達に、何個か質問させてもらうと、勉強に関する回答が多く、勉強できることが本当に喜びなんだろうなということが伝わってきました。

Q&A

Q何が欲しい？
　A.ノート、勉強道具、ボール、運動道具
Qもし大金を得たら？
　A.大学に行きたい、バイク、ギター、ボクシング道具
Q将来の夢は？
　A.先生、バイクの修理者、美容師、運転手、医者
Q勉強好き？
　A.好き！！

扇子づくり

　カンボジアの子どもたちに日本文化に触れて欲しいという思いで白紙の扇子を持っていきみんなに絵を描いてもらいました。日本のキャラクターの画像を持って行ったのでその絵を描いてくれたり、私たちの名前を書いてくれた子もいました。言葉は通じなくてもリアクションやジェスチャーで会話をし一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

・・・寺子屋ができるまで・・・・・・・・・・・・・

所長のブッタさん

日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所では、所長のブッタさんが寺子屋の詳細についてを教えてくださりました。その中で寺子屋建設への地道な方法を聞き私はとても驚かされました。まずは、学校から中退者のデータを集めます。そして、中退者のいる村の村長に住所などを聞き、中退者のいる家を一軒一軒周り説得していくそうです。説得の中では、勉強すれば貧乏な生活から明るい生活になるよ、文房具・制服はあげるよと親と子どもに伝えていくそうです。説得していき10人以上の寺子屋に通いたい子どもがいて更に土地などの条件を満たせば寺子屋の設立になります。子どもの中退の原因として親が教育の重要性を理解していないというのも1つの原因として上がる中このような方法で教育を広げていくことに、ブッタさんを含め多くの人の強い思いを感じました。

・・・識字クラス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

識字クラスは、働く方のために夕方に行われます。子どものころに教育を受けることができず文字の読めない方々に文字の読み方を教えています。教室は先生の家の一角で生徒は地面に座り授業を受けています。女性の方が多いですが男性も2，3名いらっしゃしました。生徒の皆さんに質問していくと、字を読めない頃は「恥ずかしかった」、「道に迷う」、「**目の見えない世界にいるようだった**」などといった悩み・思いがあったそうです。字が読めないということは、危険表示なども読めなくなってしまうので危険に気づけないなどといった問題もあります。私たちが異国に行き知らない言語に囲まれるのと同じような世界で日々を暮されていたのです。読み書きができるようになってからは、「薬が読める」、「道が分かる」、「子どもに教えられる」などといったことができてうれしいそうです。先生としても、みんなに喜んで教えたい、騙されないようになって欲しいという思いで先生を引き受けたそうです。

・・・寺子屋に通う子どもの家訪問・・・・・・・・・・・・・・・・

寺子屋に通うPhallicaさん12歳のお家を伺わせていただきました。母親が畳のような物を作る仕事をしており、それが1週間に1枚作れ、1枚15ドルほどで売れるそうです。借金も抱えており、それだけでは生活が成り立たないので農業のバイトもしています。父親と長男はプノンペンで出稼ぎをしているそうです。地区18年の木造の高床式のお家に住んでいます。家の中は洋服の収納、睡眠の場所として使用され、それ以外の家事は屋外で行っているそうです。ここあたりの家では住所はなく親戚などがご近所さんとして暮らしているので周りの家族とも協力しながら生活しているそうです。

近隣のお家を歩いていると、1か所に子どもたちが8人ほど集まって遊んでいました。Phallicaさんの母親に今の暮らしについて伺っていくと、欲しいものは「何にでも役に立つお金があるといいな。」、「困ってはいるけど幸せです。」ということをお聞きすることができました。お家を見学させていただいた後はPhallicaさんや近隣の子どもたちとともに一緒に走ったり、有名な歌を歌って遊びまわりました。カットフルーツなど地域の料理もいただきました。私は、プノンペンからシェムリアップへの移動の車内から道路横にある似たような高床式の家を眺めていました。その時は、この暮らしは大変なんだろうな、辛いんだろうな、幸せなのかな、自分にはできないなという感想を抱きました。実際に暮らしを細かく知っていくと、想像以上に笑顔にあふれた暮らしで辛いこともあるだろうけど幸せだというのがとても伝わってきました。また、近隣の人々が大人も子どもも協力し合い笑いあって過ごしている姿は日本には失われつつある幸せの形で少しうらやましく感じました。私には無理だろうと思っていた暮らしが、一生は無理でも何週間か体験で暮らしてみたいなと思えるようになったとともに、今の日本の暮らしは多くの技術に囲まれているなということを改めて考えさせられました。

カンボジアの歴史

ポル・ポト政権時代

1953年　カンボジア王国独立
1970年　クーデターで親米政権発足
　　内戦の始まり
1975　　クメール・ルージュ政権時代
　-79年　100-200万人の国民が死亡
1979　　ヘン・サムリン新政権側(ベトナムが支援)と
　-89年　クメール・ルージュ派で内戦

ポル・ポト政権時代を学ぶ場所として、トゥールスレン博物館(S-21)とキリング・フィールドを見学いたしました。ポル・ポトは、多くの権力者や知識人を殺害し自らの思う世界を作ろうとしました。S-21はポル・ポト政権時代に拷問が行われた場所でそれ以前は学校として使用されていました。施設には、拷問を受け曲がったベッドや血痕が残っており実際にここで想像に絶する拷問が行われていたと思うととても心が痛かったです。キリング・フィールドは、拷問等を受けた人々が埋められた土地です。多くの人が頭部をとられた状態で埋められました。子どもたちは殺すために頭を木に打ち付けられたそうです。ここでは、写真のように多くの犠牲者の頭蓋骨や発掘された骨を見ることができます。また、雨が降ると今でも地面から骨が浮かび上がってくるそうです。ガイドの方々や所長のブッタさんなど多くのポル・ポト政権時代を生きた方にお会いすることができました。ブッタさんは当時子どもで、父親は殺され母親と離され子どもの労働グループの一員として働かされていたそうです。その後、他国に亡命し教育等を受けることができました。このような経験があったから子どもたちの教育のために今働かれているそうです。虐殺の影響は、その後教育者不足などとして今も残り続けています。この時代があったのはちょうど両親が生まれたときと同時期です。生まれた場所が違っただけでこんなにも暮らし・人生が変わってしまい、場合によっては殺されてしまうということに改めて「人は生まれる場所・時と選べない」というのを考えさせられました。まだ、世界には多くの戦争・内戦があること、そこで苦しい思いをしている人々がいることに心が痛むとともに、戦争・人と人が傷つけあう行為はなくなるべきだと改めて思いました。

世界遺産：アンコールワット遺跡・バイヨン寺院

世界遺産アンコールワット・バイヨン寺院ではガイドさんの解説の元、壁画の意味などを学びながら見学いたしました。アンコールワットは9世紀に王様が作った寺院です。アンコールワットの壁画にはヒンドゥー教の物語が描かれておりラーマ王と魔王ラーヴァナが戦っている姿などが見れました。他にも、女神様の壁画の中には遊びで歯を出しているものや、妊娠線まで細かく書かれているものもあり昔の人の技術力の高さに圧倒されました。遺跡には複数個所落書きがあり、フランスが遺跡を発見した年のものや、昔の日本人によってかかれたものがありました。バイヨン寺院は主に日本が修理を行っている寺院です。世界遺産を管理するのは保有国でも、守る責任は全世界にあります。アンコールワット遺跡群は、内戦時代に戦場になったことがあり破壊や剥奪されたため危機遺産に登録されています。日本政府らはバイヨン寺院を修復するチームを作り、現地の人々とともに1995年からシンハ像とナーガ像の修復をしています。遺跡付近には日本が修復に関わったことを示すパネルや建物があります。左の写真はその1つです。遺跡見学を通して文化保護の重要性を学べました。

在カンボジア日本大使館

駐カンボジア日本大使館では、大使の植野様の御挨拶の後、経済担当の亀海様からカンボジアについての説明、日本とカンボジアの関係性について説明していただいた後、質問をさせていただきました。日本とカンボジアは包括的戦略的パートナーシップを結んでおり、親日的感情を持った国であることを教えてくださりました。日本とカンボジアが行っていること親日な点についていくつか紹介していきます。

①カンボジアのお札に日本

カンボジアの500リエルのお札には日本の国旗と日本がODAで作ったつばさ橋ときずな橋が描かれています。他国のものをお札に書くことはあまりしないので日本が好きなことが伝わってきます。最近になり、走っている車はトヨタと日産の自動車であるということもわかったそうです。

亀海様の当日資料より

②地雷撤去技術

カンボジアは内戦時代、国内に多くの地雷が設置されていました。日本はその地雷の撤去技術をカンボジアに教えました。カンボジアは学んだ技術をパラオやコロンビアの地雷撤去支援に役立てています。また、現在日本とカンボジアは協力して、ウクライナの地雷撤去の支援を行っています。

③教員養育大学

カンボジアではポル・ポト政権で教育者が虐殺されてしまったため教師が不足し・質も低い状態が長年続いています。日本はカンボジアに2年間で卒業できる教員育成大学を設立し質の向上を支援しています。今はまだ始めたばかりなので結果はあまりわかっていませんがこのような形でも支援しています。

UNESCOカンボジア事務所

UNESCOカンボジア事務所では、職員の方々がこの事務所で行っている4つのユニットについて説明してくださりました。

情報・コミュニケーションユニット

・ジャーナリストが自由に活動することを守る
・多くの人に安全なインターネットの使用の仕方を広げるために政府とともに働く
・AIから人権が守られるようにする(偏見などが広がらないように)
・虐殺の文書の保護・デジタル化

自然科学ユニット

・湖に関する調査のプラットフォームの作成
　様々な団体が調査をしているので、各々が協力し合えるような場を作っていく

文化ユニット

・その国の文化を守る
　文化はその国のアイデンティティであり大切なものだから、新しいものと歴史の共存について考えていく

教育ユニット

・政府とともによりよい教育プログラムを考えていく
・学校外の教育に関しても取り組み中退者を減らす
・教師の質向上のために取り組む

将来の夢が国連職員である私にとって、UNESCOの方々からのお話は実際どのようなことをしているのかを知れる貴重な経験になりました。

また、私自身が知らなかったUNESCOの活動が自分の興味の深い分野と関連があり、これから様々なことを選択していく中で重要なことを知ることができました。

その他カンボジアで！

市場

市場では、新鮮な果物や調理された魚などからタイパンツなどの地域のお土産がたくさん売られています。値札はなく、店員さんと値段交渉して購入します。店員さんも観光客に買ってもらうために英語だけでなく日本語も用いて話しかけてきます。大使館の亀海様もおっしゃっていたのですがカンボジアでは観光業が多く、英語ができないと商売ができない場合もあるので日本人よりも英語教育が進んでいます。ここには日本人と違ってできないと生きていけないという感覚の違いから言語力に差が出ているという気付きに出会えました。

食事

カンボジアでの料理は野菜が多かったです。野菜の中に少しのお肉が入っている形でヘルシーなものが多かったです。フルーツもたくさん食べることができジュースもとっても美味しかったです。移動中のお店にて昆虫色が売られておりタランチュラとコオロギを食べました。見た目はそのままですが味は美味しく、食べれるのが面白かったです。

日本人の支援

カンボジアには多くの日本人が支援したお店もありました。有名なアンコールクッキーのお店のほかにも「クルクメール」というアロマにまつわるお土産を売っているお店もあります。これらのお店は日本人がカンボジアの女性に仕事を与えたいという思いから始めたもので現地の人々の暮らしを支えています。観光客の私としても他のお店と違い値段が先に書いてあり、安心して質の良いものを選べる素敵なお店でした。

動物

カンボジアでは町のいたるところに動物がいました。犬や猫、ニワトリがいます。猫は日本のネコで言うと子猫位のサイズのものでやせ細った感じです。レストランなど人が食事するところに多く人懐っこい性格をしていました。

さいごに

私はこのカンボジアスタディツアーを通してたくさん学ぶことができました。寺子屋見学では、現地の子ども達の様子や授業の風景を通して、一度中退してしまった後に学べる環境があることの重要さ、多くの人に学んでもらうためには地道な作業が重要であるということを学びました。また、学習者のお家訪問ではカンボジアでの暮らしを知るとともに日本にはない新しい幸せの形を知りました。私自身の日本の暮らしこそ幸せだから貧しい国の暮らしは幸せではないのではないかという考えは間違っていたと気づかされ、世界にまだまだたくさんある様々な幸せの形を知っていきたいなと思いました。それと同時に日本では多くの技術によって生かされているなということを感じて、昔に戻ってというのは難しいような気がするので私としてはこれからはこれ以上技術に頼りすぎず、自分の体をしっかりと動かして生活をしていきたいと思うようになりました。遺跡見学では、こんなにも大きなものが9世紀に造られその一つ一つに壁画があることに人類の偉大さを感じました。日本が協力して復興しているということは知らず、また世界遺産は世界で守るものだということを知らなかったのでより多くの世界遺産を知り守るべきものとして私自身も大切にしていきたいです。虐殺の歴史からは、平和に暮らせている今の現状に感謝するとともに世界中の苦しむ人々はそこに生まれることを選べた訳ではないからこそ平和のためにできることを行うことの重要性を改めて考えさせられました。この1週間で、数えられないくらい自分の感覚が変わったような気がします。今までは当たり前に感じてしまっていたことが覆されていき、知っていても他人事感であったものが自分事になっていきました。カンボジアで学んだ経験をもとに将来の夢である国連職員として世界をよりよいものへ変えられるようこれからも常に考えて生きていきたいです。そして、カンボジアのためにできることとして書き損じはがきプロジェクトに参加するなどして出会った人々・カンボジアの人々のために微力でも力になっていきたいです。いつかまたカンボジアを訪れ、カンボジアの変わったところ変わらないところを見に行きたいと思います。今回、ツアーに参加したくさんの素敵な方に出会うことができました。ツアーを運営してくださった方々、訪れた施設の方々、ガイドさん、そして一緒にツアーに参加した9人などなど、この出会いをこれからも大切にしていきたいと思います。
皆さん本当にありがとうございました。

P.S.このニュースレターを読んでくださり、カンボジアに興味を持たれた方はぜひカンボジアに行ってみてください。多くの人に自分の目でカンボジアを見て欲しいです！！あなたの何かが変わると思います！！